

# 日本気象学会

## 昭和49年春季大会

会期：昭和49年5月21日（火），22日（水），23日（木）

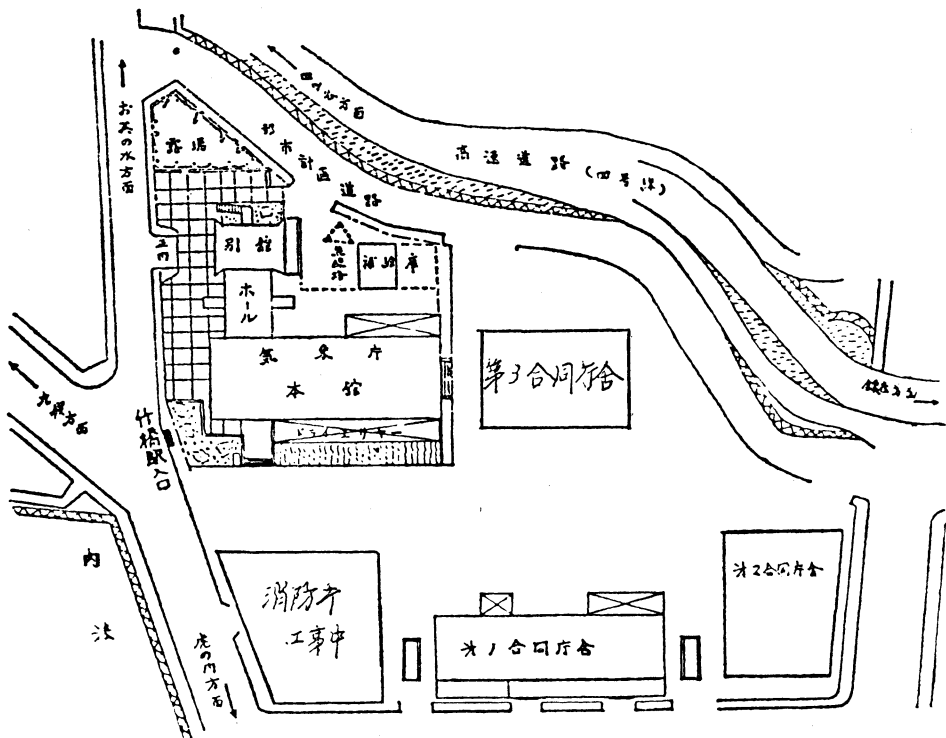
会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）

### 目 次

日本気象学会昭和49年度総会提出議題	166
大会行事予定表	170
総会次第	170
研究発表内容一覧表	171
研究発表題目	172



### 会場案内図



（道順）地下鉄東西線 竹橋駅下車がもっとも便利です。

日本気象学会昭和49年度総会提出議題

会費の値上げ、会員の資格、中部支部設置に関する定款および細則の一部改正について

提案理由

第17期理事会では財政の建てなおしに、いろいろの面から努力してきましたが、最近の異常な物価高により会費の値上げのやむなきにいたりしました。

これを機に会費滞納による赤字を減らすことにも努めるつもりです。しかし、現行の定款ではこの種の会員を除名するには、かなりの手数を要しますので、もっと手数のかからない方法を考えています。

また、学会の長期計画の一つである支部活動を充実するため昭和50年4月より名古屋に中部支部を設置することを考えています。

このため理事会は上記のことを行なうための定款および細則の一部改正を提案し会員各位の理解と賛同を要請いたします。

議案 1. 会費値上げのための定款の一部改正について  
 定款第6条第1項第1号中「2,400円」を「3,200円」に「1,560円」を「2,000円」に「3,240円」を「3,900円」に、同項第2号中「4,560円」を「6,400円」に「2,880円」を「4,000円」に、「5,400円」を「7,800円」に、同項第3号中「3,360円」を「4,920円」に「6,720円」を「9,840円」に改める

議案 2. 会員の資格についての定款および細則の一部改正について

(1) 定款第11条を次のように改める。

定款第11条中「総会の議決」を「理事会の議決」に改める。

(2) 細則第17条ただし書中「会費の納付を6カ月以上怠った者」を「会費の納付のない者」に改める。

議案 3. 中部支部設置のための細則の一部改正について  
 細則第7条第1項中

「関東地区（東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、静岡県、岐阜県、三重県）」

を

関東地区（東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県）  
 ……8名、加算分5名

中部地区（富山県、石川県、福井県、長野県、静岡県愛知県、岐阜県、三重県）……2名

に改める。

付則 この定款の変更は、文部大臣の認可の日から施行する。ただし第6条は昭和50年1月1日から実施する。

参照 新旧条文

新 条 文 (改正案)	旧 条 文 (現 行)
<p>定 款</p> <p>第6条 この会の種別および会費は、次のとおりとする。</p> <p>1. 通常会員 この法人の目的に賛同し、次の区分により会費を納める者。</p> <p>A会員 会費として年額金3,200円を納める者、ただし在学中の会員は年額金2,000円、外国に在住する会員は年額金3,900円とする。</p> <p>B会員 会費として年額金6,400円を納める者、ただし在学中の会員は年額金4,000円、外国に在住する会員は年額金7,800円とする。</p>	<p>第6条 この会員の種別および会費は次のとおりとする。</p> <p>1. 通常会員 この法人の目的に賛同し、次の区分により会費を納める者</p> <p>A会員 会費として年額金2,400円を納める者、ただし在学中の会員は年額金1,560円、外国に在住する会員は年額金3,240円とする。</p> <p>B会員 会費として年額金4,560円を納める者、ただし在学中の会員は年額金2,880円、外国に在住する会員は年額金5,400円とする。</p>

新 条 文 (改正案)	旧 条 文 (現 行)
<p>3. 団体会員 この法人の目的事業に賛同し、会費年額A会員として1口金<b>4,920円</b>を1口以上、B会員として1口金<b>9,840円</b>を1口以上納める団体「4項以下変更なし」</p>	<p>3. 団体会員 この法人の目的事業に賛同し、会費年額A会員として1口金<b>3,360円</b>を1口以上、B会員として1口金<b>6,720円</b>を1口以上納める団体「4項以下変更なし」</p>
<p>定款 第11条</p>	<p>定款 第11条</p>
<p>会員が次の各号の1に該当するときは、<b>理事会の議決</b>を経て、理事長がこれを除名することができる。</p>	<p>会員が次の各号の一に該当するときは、<b>総会の議決</b>を経て、理事長がこれを除名することができる。</p>
<p>1. 会費1年分以上を滞納した場合 2. この法人の定款にそむき、またはこの法人の名誉をそこなう行為のあった場合</p>	<p>1. 会費1年分以上を滞納した場合 2. この法人の定款にそむき、またはこの法人の名誉をそこなう行為のあった場合</p>
<p>細則 第7条のうち</p>	<p>細則 第7条のうち</p>
<p>関東地区（東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、山梨県） ……8名 加算分 5名</p>	<p>関東地区（東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）…10名 加算分 5名。</p>
<p>中部地区（富山県、石川県、福井県、長野県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）……………2名</p>	
<p>細則 第17条</p>	<p>細則 第17条</p>
<p>名誉会員、団体会員および通常会員のうちのB会員には、天気および気象集誌を無償で配布し、通常会員のうちのA会員には天気を無償で配布する。ただし、<b>会費の納付のない者</b>には無償配布を停止する。本会機関誌は一般購読者に対しても常任理事会で決められた適当な価格で配布する。</p>	<p>名誉会員、団体会員および通常会員のうちのB会員には、天気および気象集誌を無償で配布し、通常会員のうちのA会員には天気を無償で配布する。ただし、<b>会費の納付を6カ月以上怠った者</b>には無償配布を停止する。本会機関誌は一般購読者に対しても常任理事会で決められた適当な価格で配布する。</p>

## 会費の改定案について

諸物価の高騰がはげしいため、学会は健全財政を維持することがきわめて困難な状況にあるということは、「天気」1月号（1974）でお知らせしました。昭和49年度は会費を値上げしても、会費前納制を採用しているため、実施されるのは昭和50年1月からであり、その効果は3カ月分にすぎません。このため、昭和49年度は極力健全財政を維持するよう努力しますが、前述の「天気」でも示したように、諸物価の上昇がないとしてもなお会費を約40%値上げすることが必要です。

### 参考 1 諸経費の新旧比較

昭和49年度は、前年度と同規模の学会活動を維持していくため、表1で示す諸経費増を見込まなければならぬ。

### 参考 2 A・B会員の会費負担率

A・B会員の会費の負担率は、昭和49年度における“天気”、“気象集誌”の一部当りの印刷編集費（別刷印刷費を除く）とこれの郵送料から決定するのが合理的と考えられる。表2から、“天気”一部当りの年間経費は、“気象集誌”のそれと同額であるとみてよい。したがっ

表 1 諸経費増

年次	印刷編集費		郵送料		一般通	発送	人件
	天気	集誌	天気	集誌	信費	経費	費
昭和48年度	千円 5,743	千円 3,861	千円 744	千円 315	千円 600	千円 263	千円 2,909
昭和49年度	7,339	4,666	964	417	750	534	3,503
経費増(%)	27.8	20.8	29.6	32.4	25.0	103.0	20.4

注 1) 印刷費は平均25% up

2) 郵便料金は昭和49年10月改正を見込む

表 2 “天気” “気象集誌” 一部当りの年間経費

区 別	印刷編集費		印刷部数	単 価	郵送料	一部当りの経費
	千円	部				
天 気	7,339	3,400		2,159	312	2,471
気象集誌	4,666	2,100		2,222	240	2,462

て、B会員(“天気”と“気象集誌”)の会費負担はA会員(“天気”だけ)の倍額が妥当である。

### 参考 3 会員の会費負担額

A会員の値上げ幅を若干低くおさえ、外国在住会員

表 3 会費改定案

会員の種別		改定額	現行額	値上げ額	値上げ率
		円	円	円	%
通常会員	A	3,200	2,400	800	33.3
	B	6,400	4,560	1,840	40.4
学生会員	A	2,000	1,560	440	28.2
	B	4,000	2,880	1,120	38.9
外国在住会員	A	3,900	3,240	660	20.4
	B	7,800	5,400	2,400	44.4
団体会員	A	4,920	3,360	1,560	46.4
	B	9,840	6,720	3,120	46.4

注：表4に示す予算会員数により平均値上げ率を見積ると38.9%(ただし昭和49年度は3ヵ月だけ適用されるので9.7%)となる。

(B会員)、団体会員については郵送料その他の点を考慮して値上げ幅を若干大きく見積った。なお、“気象集誌”のみ購読する外国人会員は、A会員に準じた会費を適用することにした。改定案は表3のとおり。

### 参考 4 昭和49年度予算書(案)

上記各事項を基礎とした昭和49年度予算書(案)を表4に示す。

表 4 昭和49年度予算書(案)

科目	収入の部		科目	支出の部	
	金額	内訳		金額	内訳
会費	千円	千円	印刷編集費	千円	
A 会費	16,012	1666	気象誌	5,044	別刷印刷費
B 学生会費	5,230	1042	天気集	7,415	378千円を含む
学団体在任会費	403	A43	気象研究ノート	5,250	76千円を含む
費助会費	3,108	A447	気象予報集	830	天気にとじこみ、郵送料
雑誌図書頒布	2,420	A100	外国文献集	4,400	追加分33千円を含む
気象研究ノート	13,530		図書購入費	250	
予稿集		6,300	発送通信費	3,083	
外国文献集		830	会議費	518	
その他		4,400	総会費	283	秋委大会(福岡)の会場費
文部省助成金	590	2,000	役員会費	100	は前年度支払済
雑収入	3,180		講演員会費	65	
前年度繰越金予定額	366★		企画委員会	10	
附帯事項			学術交流委員会	10	
1. 昭和49年度予算書では、健全財政を維持するため、雑誌図書頒布、雑収入において前年比約500万円の増収をみこんでいる。			外国文庫委員会	10	
2. 物価上昇により、昭和49年度頭初にたてた予算収支のパランスが年度内に大きく乱れることが予想される場合は、機関誌の減ページなどの事業縮少を、さらに昭和50年度の学会活動が困難になると予想される場合は、再度の会費値上げを考えざるをえない。			各賞委員会	10	
			長崎学芸委員会	10	
			南選管委員会	10	
			学賞	50	
			学原賞	50	
			奨励金	150	
			支那交付金	725	
			事務局費	4,803	
			人件印刷費	3,503	
			物品経費	600	
			旅費	700	
			退職金	50	
			翌年度繰越金	250	
				100★	
合計	33,678		合計	33,678	
基本金	650				
職員退職積立金	120				
藤原賞基金	1,500				

注、金額の単位は千円、★は概算額

## 大会行事予定表

1. 会場 気象庁（東京都千代田区大手町1-3-4）  
     第1会場：講堂（予定）  
     第2会場：第1会議室（予定）  
     第3会場：気象大学校研修教室（予定）
2. 会期 5月21日（火）、22日（水）、23日（木）
3. 行事

行事		
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月21日（火）	9.00～12.30
" "	" "	13.30～17.00
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月22日（水）	9.00～12.00
シンポジウム（第1会場）	" "	13.00～15.00
総会（" "）	" "	15.00
学会賞藤原賞受賞記念講演（" "）	" "	～17.30
懇親会	" "	17.30
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月23日（木）	9.00～12.30
" "（第2，第3会場）		13.30～16.00
" "（第1会場）		13.15～16.00
将来のための反省会（第1会場）	5月23日（木）	16.00

大会委員長（交渉中）

## 総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和48年度事業経過報告
7. 昭和48年度会計決算報告
8. " " 会計監査報告
9. 昭和49年度予算案，事業計画，予算審議
10. 会費値上げのための定款の一部改正について
11. 会員の資格についての定款および細則の一部改正について
12. 中部支部設置のための細則の一部改正について
13. その他
14. 気象学会賞受賞記念講演
15. 藤原賞受賞記念講演

## 昭和49年春季大会

( ): 講演番号  
— : 座 長

	第 1 会 場		第 2 会 場		第 3 会 場	
21日 (火)	0900~1200	境界層 (101~112)	0900~1200	雲物理 (201~212)	0900~1145	放射 (301~311)
	1200~1230	総合質疑 —島貫 陸—	1200~1230	総合質疑 —小野 晃—	1145~1230	総合討論 —嘉納 宗靖—
	1330~1630	境界層 (113~124)	1330~1430	雲物理 (213~216)	1330~1545	AMTEX, 熱帯気象 (312~320)
	1630~1700	総合質疑 —竹田 厚—	1430~1500	総合討論 —小野 晃—	1545~1630	総合討論 —二宮 洸三—
			1500~1700	積雲 (217~224)		
			1700~1730	総合討論 —浅井 冨雄—		
22日 (水)	0900~1000	境界層 (125~128)	0900~1145	大気電気と雷 (225~235)	0900~1145	大気大循環 (321~331)
	1000~1030	総合討論 —竹田 厚—	1145~1200	総合討論 —石川 晴治—	1145~1200	総合討論 —菊池 幸雄—
	1030~1200	大気汚染 (129~134) —河村 武—				
	1300~1500	シンポジウム				
	1500~1730	総会				
23日 (木)	0900~1215	大気汚染(135~145 b)	0900~1200	気 候 (236~247)	0900~1215	力学と総観気象 (332~343)
	1215~1230	総合討論 —河村 武—	1200~1230	総合質疑 —根本 順吉—	1215~1230	総合討論 —伊藤 広—
	1315~1545	測器と観測法 (146~154 a)	1330~1545	気 候 (248~256)	1330~1545	力学と総観気象 (344~352)
	1545~1600	総合討論 —小平 信彦—	1545~1600	総合討論 —朝倉 正—	1545~1600	総合討論 —倉嶋 厚—
			1600~	将来のための反省会		

## 研究発表題目

大会第1日(21日)9時~12時30分

## 第1会場 境界層 座長 島 貫 陸

101. 平 啓介・石川浩治・三沢信彦(東大海洋研): 風浪場の水の中レイノルズ応用の測定(Ⅱ)
102. 佐橋謙(岡大教育), 大滝英治(岡大教養): 多良間島北岸での乱流輸送量の測定
103. 内藤玄一・渡部勲(防災センター): 海上における乱流観測
104. 佐々木嘉和(オクラホマ大), 光田寧(京大防災研), 花房竜男(気研物理): Planetary boundary layerにおける乱流輸送量の観測
105. 横山長之・蒲生稔・山本晋(公資研): 混合層の構造に関する観測
106. 福島 円・秋田錦一郎・田中浩(電波研): ソーダによる境界層の観測結果(Ⅱ)
107. 福島 円・秋田錦一郎・今井雄司(電波研): ソーダによる境界層の観測結果(Ⅲ)
108. 佐々上浩(北大理): 南極大陸における乱流観測
109. 塚本 修(京大理), 光田寧(京大防災研): NIFTIによる乱流輸送の測定
110. 山本 晋・蒲生稔・横山長之(公資研): 飛行機による乱流フラックスの測定(その3)
111. 蒲生 稔・山本晋・横山長之・吉門洋(公資研): 海陸2境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測
112. 北林興二(公資研): 斜面風の風洞実験

## 第2会場 雲物理 座長 小 野 晃

201. 小野 晃(気研物理): サブミクロンエアロゾル粒子1粒1粒の化学組成分析法について
202. 岩井邦中(信州大教): シリコンオイル中で成長する氷のひげ結晶について
203. 岩井邦中(信州大教): シリコンオイル中での氷晶の変形と成長
204. 権田武彦・室町義昭(東理大理工): 兎毛上に成長する雪結晶の大気圧の影響
205. 権田武彦・長界幸男(東理大理工): 雲母上に成長する氷結晶の大気圧の影響
206. 菊地勝弘(北大理): いわゆる畸型雪結晶について

207. 梶川正弘(秋田高専)・森本巖(北大理): 雪結晶の落下運動について
208. 山見信之(北大理): 角板, 角柱結晶の種類について
209. 山見信之(北大理): 雪結晶の中心部と気象条件について
210. 山見信之(北大理): 低気圧の通過に伴う氷晶の空間濃度の変化
211. 佐粹純男・徳植弘(気研物理): fluttering をする雪模型の雲粒捕捉について
212. 播磨屋敏生(北大理): 過冷却雲内での降雪粒子の成長について(その2)一霰の密度

## 第3会場 放射 座長 嘉 納 宗 靖

301. 石田健二(電力中研)・池辺幸正(名大工): レスポンス行列法によるサブミクロンエアロゾル粒径分布の解析(Ⅳ) ThB-marked aerosol 検出による方法
302. 磯野謙治・三田昭吉(名大水圏研): エアロゾルの光学的特性の湿度による変化一特に構成物質を考慮して一(序報)
303. 田中正之・高橋佳昭(東北大理): 大気消散係数の測定に基くエアロゾルの粒度分布について
304. 村井潔三・小林正治・後藤良三・山内豊太郎(気研高物): 短波長放射諸成分の測定結果について
305. 村井潔三・小林正治・後藤良三・山内豊太郎(気研高物): 短波長放射に及ぼす雲の効果について
306. 佐藤隆夫(長崎大): 第三次散乱の位相函数の計算値
307. 佐藤隆夫(長崎大): 傾斜面日照時間の年変化
308. 嘉納宗靖・鈴木正・宮内正厚(気研高物): 屋間の長波長放射量の観測について
309. 嘉納宗靖・鈴木正・小川芳雄(気研高物): 曇天時の放射量の観測
310. 嘉納宗靖・宮内正厚(気研高物): 放射ゾンデ測定値と理論値との比較について(第2報)
311. 井沢竜夫(気研台風): 気象衛星などによる温度のリモート・センシング



## 大会第1日(21日)13時30分~17時

## 第1会場 境界層 座長 竹田 厚

113. 高野憲治(東大理), 環境モデル設計グループ: 「スカイラブ」と共同で行なった地上気象観測について
114. 環境モデル設計グループ: 関東南部における局地風の立体構造—1973年夏の観測結果—
115. 吉門 洋・横山長之(公資研): 境界層の鉛直構造に関する数値実験
116. 瀬尾琢郎・米谷俊彦(岡大農研): 水田上の乱流輸送について
117. 文字信貴(大阪府大工), 林泰一(京大理), 光田寧(京大防災研): 接地気層内の熱対流
118. 千葉 修(高知大文理): 接地気層の乱れのスケール
119. 竹田 厚(東大海洋研): 海面の凹凸の効果についての一考察
120. 光田 寧・加藤晶子・藤谷徳之助(京大防災研): 風の乱れの空間分布について
121. 島貫 陸(東京学芸大): プラネタリー境界層上端付近の乱流輸送
122. 安達隆史(東北大理): エクマン層に適用する無次元化風速シャー関数について
123. 蒲生 稔・横山長之(公資研): 上部大気境界層中における  $\sigma_w$  と  $U$  の関係
124. 黒崎明夫(名古屋地台): グラウンド・エコーによる境界層内の気温減率の推定

## 第2会場 雲物理 座長 小野 晃

213. 塩月善晴(山口大工短部): 含水量の正規分布性と粒度分布について
214. 高橋喜彦: 撒水法(人工降雨)の効率を高めるための噴霧水粒の大きさとその水量について
215. 岩淵武士・孫野長治(北大理): 種々の自然水の微水滴の凍結荷電について
216. 岩淵武士・孫野長治(北大理): 電場中での微水滴の凍結荷電の理論的考察

## 積雲対流 座長 浅井 富雄

217. 武田喬男(名大水圏研): 孤立した対流雲の降水能

## 率(第2報)

218. 山岬正紀(気研台風): 積雲対流と大規模運動の相互作用に関する数値実験(1)
219. 三浦勇一(東理大理工): 中規模擾乱域における運動量および熱の輸送機構(1)
220. 小元敬男・米谷垣春(防災センター): 簡単な積雲対流モデルによる面積雨量予報(序報)
221. 神子敏朗(気象庁衛星), 岡野光也(気象庁通報): 資源衛星写真による小規模積雲の生成に与える地形効果の一例
222. 八木鶴平・小元敬男(防災センター): 北関東における積乱雲の構造と行動, その1
223. 清野 裕・小元敬男(防災センター): 北関東における積乱雲の構造と行動, その2
224. 宮崎忠臣(宇都宮大工): レーダによる雷雲雲頂の観測(II) [エコーの垂直構造による雷活動の予測]

## 第3会場 AMTEX, 熱帯気象 座長 二宮 洸三

312. 松本誠一・宮沢清治・岡林俊雄・清水正義(気象庁予報): 1974年2月の AMTEX 期間中の総観解析
313. 二宮洸三(気研予報): AMTEX-74 期間の擾乱と逆転層
314. 大井正一・藤田敏夫・内山徳宗・本多庸浩(気研予報): 日本附近の低気圧発生(4) 南西諸島
315. 浅井富雄・東辻千枝子(東大海洋研): 冬季南西諸島付近における対流圏の構造(4)
316. 野本真一・竹永一雄・原達也(気象庁予報): 500 mb PROG を使用した台風進路の統計予報
317. 渡辺和夫(気研台風): 衛星写真に見る熱帯雲クラスターの渦動化
318. 丸山健人(気研予報): 1967年ライン諸島実験中にみられた対流圏の気圧擾乱(続)
319. 丸山健人・常岡好枝(気研予報): 上昇流のスペクトル解析
320. 新田 勅(東大理): 積雲対流と大規模場との相互作用に関する解析

## 大会第2日(22日)9時~12時

## 第1会場 境界層 座長 竹田 厚

125. 林 正康・蒲生稔(公資研): 都市域での接地逆転

## 層の生成消滅

126. 小川賢一郎(防大地学): 冬季の相模平野の海陸風

現象について

127. 竹内衛夫(気研予報): 海表面からの熱輸送東および水蒸気輸送東のパラメタリゼーションについて  
 128. 浅井辰郎・林陽生(お茶大): ビル内垂直温度分布の両端に起る異常傾向

**大気汚染 座長 河村 武**

129. 大滝 厚(明大工)・塩沢清茂(早大理工): 大気汚染質濃度の統計的推定方式(第1報: 汚染質の濃度変動の統計モデル)  
 130. 大滝 厚(明大工), 塩沢清茂(早大理工): 大気汚染質濃度の統計的推定方式(第2報: 汚染質濃度の推定理論)  
 131. 大滝 厚(明大工)・塩沢清茂(早大理工): 大気汚染質濃度の統計的推定方式(第3報: 広域大気汚染の推定方式)  
 132. 日野幹雄(東工大): 因子分析と回帰分析とフィルターリングによる汚染予測法  
 133. 岡本真一・塩沢清茂(早大理工): 拡散モデルによる大気汚染シミュレーション  
 134. 光化学スモッグ研究グループ(代表者, 竹内清秀(気研応用)): ラグランジ法による大気汚染のシミュレーションモデル

**第2会場 大気電気と雷 座長 石川 晴 治**

225. 佐藤公喜・竹内純一郎(愛知県公害調査センター): 大気拡散場における吸湿性エアロゾルの粒度分布特性  
 226. 伊藤朋之(気研物理): ポラック型凝結核自動測定器の給湿法と温度制御法について  
 227. 遠藤辰雄(北大理): 降雪時の空間電荷測定(その2)  
 228. 坂本洋和(北大理): 電荷ゾンデのトランジスタ化とその試作  
 229. 遠藤辰雄・孫野長治(北大理): 降雪雲内の電気ゾンデ観測  
 230. 西村修一・孫野長治(北大理): 天然の雪および着

氷の融解水を用いた水滴の凍結荷電に関して

231. 志尾 弥(北教大): 氷の歪と電気  
 232. 竹内利雄・長谷正博・仲野責(名大空電研): 西太平洋地域の雷  
 233. 竹内利雄・仲野責・長谷正博(名大空電研): 北陸地方の冬の雷の放電特性  
 234. 木村啓造・北川信一郎(埼玉大理工), 内山徳栄・大井正一(気研予報): 空電強度自記器に記録された冬期の雷放電(第2報)  
 235. 仲野 責(名大空電研): 雷放電後の電場回復と電荷の生成

**第3会場 大気大循環 座長 菊池 幸 雄**

321. 福山 薫(京大理): 中間圏・下部熱圏における中性大気成分の分布(Ⅲ)一鉛直運動の効果一  
 322. 村松久史・経塚貢(気研高物): 成層圏・対流圏におけるオゾンの輸送  
 323. 岩坂泰信(名大水圏研): オゾン層におけるSO<sub>2</sub>の酸化反応(Ⅱ)  
 324. 伊藤久徳(京大理): 1971年1月下旬のプロッキングの解析  
 325. 安成哲三(京大防災研): デジタル化した平均輝度分布図による南半球中緯度帯の循環の解析  
 326. 山元竜三郎・川平浩二(京大理): 成層圏・中間圏プラネタリー波と大循環(序報)  
 327. 川平浩二(京大理): 中間圏プラネタリー波の力学的特性(非断熱効果の役割)  
 328. 宮原三郎(九大理): Jones critical level での吸収について  
 329. 宮原三郎(九大理): Jones critical level での吸収について(数値計算)  
 330. 大井正道(大阪教育大): Transient topographical perturbation の支配方程式導出について  
 331. 木田秀次(東大理): 大気大循環モデルの長時間積分

**大会第3日(23日) 9時~12時30分****第1会場 大気汚染 座長 河村 武**

135. 志尾 弥・工藤正行・新輝章(北教大): スモッグ現象のモデル実験について  
 136. 内藤恵吉(気研衛星), 池野達哉(気協会), 高橋克己・田端功・横田良夫(気研衛星): ライダーによる排煙流観測の一解析

137. 磯野謙治・和田誠(名大水圏研): 都市化による大気中の混合比の変化  
 138. 成田 脩(北大工): 札幌市の大気汚染の気候学的解析(観測値の代表性について)  
 139. 野本真一(気象庁予報): 海陸風と視程の日変化  
 140. 志尾 弥・川岸和則・林重夫(北教大): 水滴によ

る  $\text{NH}_3$  ガスの浄化作用について

141. 大井 清・菊地立・伊藤昭治(千葉県公害研), 松岡義浩(千葉県農試): 局地風系と大気汚染について(第1報)——オキシダントによる農作物被害調査の気象解析——
142. 谷治正孝(横浜国大): 冬の東京における dust horizon の上昇過程と視程
143. 若松伸司・オ木義夫(神奈川県公害センター): 境界層内部でのオゾン濃度分布
144. 山本 晋・横山長之(公資研): 煙流拡散幅の推定法について
145. 岡田菊夫(名大水圏研): 大気中の  $\text{XSO}_4$  粒子濃度の変動
- 145 a. 河村 武(気象庁予報): 関東平野南部における地上風系
- 145 b. 角田道生・須賀新一・林隆(原研): 塔による海風逆転の観測例

## 第2会場 気候 座長 根本 順 吉

236. 高橋喜彦: ある天気カレンダー(市販)と気象庁予報部の予報適中率について
237. 榎山政子(気研応用)・竹内寿一郎(慶大工): センサスメソッドIIによる乳児死亡の季節変動の解析(第2報)
238. 菊地原英和(気象庁統計): 異常値と標準偏差から見た月平均気温・月降水量の経年変化
239. 中西 朗(新潟市立桃山小): 新潟の積算降雪量と瓢湖の白鳥渡来最大羽数
240. 土屋 敏(気研企画): 多年性積雪の変態に関する気候上の問題について
241. 神田健三(信大自然研): 穂高岳・洞沢の雪渓調査報告
242. 当舎万寿夫(気研台風), 三寺光雄(気研応用), 奥田穰(気研台風): 山林地の雨水の配分について
243. 井上治郎(京大防災研): ヒマラヤ高山地域におけ

る熱と水の交換

244. 比較氷河研究会: 東ネパール・クンプ地域における氷河気候調査(1)
245. 藤井理行・樋口敬二(名大水圏研): 東ネパール・クンプ地域における氷河気候調査(2)
246. 佐々木浩(北大理): 東南極みずほキャンプにおける地上気象観測
247. 大井正一・内山徳栄(気研予報): 成層圏天気図の解析(23) 春から夏への変化

## 第3会場 力学と総観気象 座長 伊 藤 宏

332. 中村 一(東大理): 大気数値モデルの鉛直分解能について
333. 岸保勘三郎(東大理): 大規模擾乱のうず輸送量を拡散の形式で表現することについて
334. 木田秀次(東大理): 大気数値モデルによる trajectory の追跡
335. 木村竜治(東大海洋研): 順圧不安定の実験
336. 木村竜治・山形俊男(東大海洋研): 順圧不安定によって生じる渦の場について
337. 木村竜治(東大海洋研): 安定に成層した流体の対流(線型理論)
338. 木村竜治(東大海洋研): 安定に成層した流体の対流(室内実験)
338. a 松野太郎・松田佳久(東大理): 安定層を局所加熱したときの対流の数値実験
339. 北出武夫(気研台風): 3次元対流の特性について
340. 大河内康正(九大理): 非一様に下部を加熱した対流(2)
341. 古川武彦(気研台風): 線型初期値問題としての lee wave (非線型の場合との比較)
342. 八木正允・新田尚(気象庁電計): 中小規模現象のための数値予報モデルの予備テスト
343. 大西外史(防大): 楕円型波動方程式の数値解法について

## 大会第3日(23日) 13時30分~16時(但し第1会場13時15分~16時)

### 第1会場 測器と観測法 座長 小 平 信 彦

146. 石崎 広・山元竜三郎・岩嶋樹也(京大理): 気象図パターンをデジタル化する M-D 変換装置
147. 立平良三(気象庁), 清水紀雄(日本無線): デジタル信号処理によるレーダーエコー特性の改善
148. 高島 勉(気研衛星): 衛星による資源探査の方法について

149. 鈴木 茂・旭満(気象庁高層): ラジオゾンデの気温測定に及ぼす日射の影響
150. 橋本安雄(吉野計器), 河野幸男・安富佐々夫(気象庁測器): 隔測自動通風乾湿計
151. 佐橋 謙(岡大教育): 湿球温度計の湿面に付着する塩分について
152. 清水逸郎(気象庁高層): 降水量の観測に及ぼす風

153. 岩坂泰信(名大理)：相関分光法の改良点と問題点の影響について  
 154. 竹田 厚・平啓介・石川浩治・三沢信彦(東大海洋研)：デジタル型超音波風速温度計とそれによるフラックス計測システム  
 154. a 後町幸雄(京大防災研)：雨滴計による観測について

**第2会場 気候 座長 根本 順吉**

248. 田宮兵衛(東教大)：100mb 南アジア 高気圧 とモンスーンアジアの夏の降水  
 249. 吉野正敏(法政大)：気圧配置の出現頻度の最近の変化について  
 250. 須田滝雄：気象に及ぼす影響より見た太陽活動の特性  
 251. 須田滝雄：太陽低緯度黒点の気象に及ぼす影響とその気候変動予測への応用  
 252. 真鍋大覚(九大工)：開聞爆発の頃の天変地異  
 253. 福井英一郎：異常気象の出現と分布  
 254. 野元世紀(法大地理)：高山高気圧・駿河湾低気圧・房総不連続線の総観気候学的解析  
 255. 中島暢太郎(京大防災研)：瀬戸内海の気候学的研

究

256. 蔵重 清(気研台風)：近年10年間の東京湾における高潮

**第3会場 力学と総観気象 座長 倉 島 厚**

344. 二宮洗三(気研予報)：梅雨期九州西方海域の海水温と下層の成層状況・エコー分布  
 345. 山口勝輔(北大理)：渦状エコーと小低気圧(石狩湾)  
 346. 渡辺 明(気研海洋)：伊東海岸周辺の雨について  
 347. 吉住禎夫(気研予報)：梅雨前線帯上の2日周期のじょう乱の解析  
 348. 黒崎明夫(名古屋地台)：中規模附雨に伴なう渦度場と発散場の解析  
 349. 秋山孝子・二宮洗三(気研予報)：長大なエコーバンドのメソスケールの構造  
 350. 増田善信(気象庁電計)：客観解析の問題点  
 351. 神子敏朗(気象庁衛星)：衛星写真にあらわれる影による雲頂高度の算出  
 352. 立平良三・牧野義久(気象庁電計)：デジタル化されたエコーパターンの電計処理

春季大会予稿集について

定期講読者以外は直接学会事務局へ申込んで下さい。定価1部800円(予定)